

日本アパレル工業技術研究会技術セミナー

2019年10月2日(水)午後1:30から日比谷図書文化館 4Fスタジオにて日本アパレル工業技術研究会(港区西新橋 近藤茂樹会長)による第41回アパレル工業技術セミナーに約40名の会員が参加し、開催された。

テーマ・講師は次の通り

1. 「日本人成人の人体計測 2014-2016」
講師: 日本女子大学家政学部被服学科 教授 大塚美智子氏
2. 「ファスナー商品の紹介」
YKK株式会社 ファスニング事業本部 ジャパンカンパニー 小鹿野茜氏

初めに近藤会長から挨拶があった。

現在アパレル業界ではスマートファクトリーを推進しようとしている。スマートは「考える」と言うことだが、そのためにはベースとしてデータの共通化、標準化が必要になる。この中で言葉の定義がネックになっている。仕様書などの言葉が標準化していないと運用できない。これは日本語だけでなく英語など世界との共通化が必要となる。

今回テーマのひとつである人体計測もISOとの共通化など標準化の一つとなる。もう一つのテーマであるYKKのファスナーだがこれもJUKIとのコラボレーションにより画期的な製品も出来ている。

テーマ1

日本女子大学家政学部被服学科 教授 大塚美智子氏から人体計測の結果について公演があった。

この計測は文部科学省の科学研究費によるもので2014-2016年に実施された。これまで日本家政学会の被服構成学部が主体にやってきた。今回の計測まで20年間計測されていなかった。このため実際に計測してきた先生方が高齢になり、このままでは計測も出来なくなる。また20年計測しなかったためデータが古くなっている。国際競争力の面からも人体計測データベースを構築する必要がある。また最近3D計測の考え方やISOの計測方法との整合性などの課題がある。ISOではバーチャルフィッティングの標準化も進められている。

今回計測は全国だが関東が多い、年齢は学生主体で若年層が多い。また高齢者も比較的多く取られている。これらの偏向ばらつきに関しては文科省のデータを参考に修正している。

全国的には北は背が高く、南は低い。体重も同様な傾向。しかしこれらは衣料サイズJISとして誤差の範囲でまとめることが出来る。

その他、この20年間で差異のある傾向として下記が認められた。

(女性)

- ・平均身長は2.5cm高くなった
- ・カップサイズはほとんど変化していないが、Dカップ以上の多きサイズの割合が微増している。
- ・PPサイズ(背の小さい人)はほとんど存在しなくなった。
- ・中高年の体型維持が出来ている。
- ・乳頭高は50歳代までは維持できており、中高年の乳房の下垂は少なくなった。
- ・後胴囲、腸骨棘高は50歳代までは変化が少ない。

なお、この「人体寸法データブック」は販売されています。

(一社)日本家政学会被服構成学部会発売「日本人成人の人体寸法データブック 2014-2016」

(CD収録)税込価格 8,800円

日本アパレル工業技術研究会事務局宛てメールでお申し込みください。

apakoken@jat-ra.com

テーマ2

YKK株式会社 ファスニング事業本部 ジャパンカンパニーの小鹿野茜氏より、YKKファスナー最新の商品情報が提供された。YKKはグローバル企業であり、グループ会社108の内海外が89者を占める。従業員数も国内17671人に対し、海外28496人。最新のファスナーとして以下が現物サンプルとともに紹介された。

- ・メタリック調の止水ファスナー AquaGuard
- ・天然素材を利用したGreenRise
- ・挿入補助機能と緊急解放機能を備えたQuickFree
- ・簡単に操作のできるClick-TRAK
- ・操作性を向上させる挿入補助パーツ
- ・スライダーに適度な抵抗を付けぶらつき軽減機能のCONCEALステイダウン引き手
- ・ケミカルリサイクルのNATULON

この商品は1990年後半に発売したが、当初売れずに廃盤とする検討もされたが、最近
は海外メーカー中心に売れ筋商品となっている。

- ・エレメントが様々な色に輝くAUROLITE
- ・エレメントがビーズ型のビーズファスナー
- ・世界最小で柔軟性のあるというMINIFA

以上のファスナーは2019. 10. 2(水)-10. 4(金)に開催された「第5回 生地・素材EXPO
秋」 東京ビッグサイト YKKブースでも展示された。

なお、古稲さんから追加の説明があった。

現在商品開発は世界的にやっていて、海外からの要望を日本で開発している開発部隊は17
名、技術者は5名デザイナー3名いる。ご要望があれば対応できると思う。

JUKIとの共同開発ではテーブルスファスナーも出来た。いまのところ一般に販売はしてい
ない。

もう一つの課題は偽物対策。NECとの共同で AIを利用した画像認識がある。トレーサビ
リティーもこの関連で重要になっている。シャンペンなどの高いお酒ではロット番号を入
れているが、再販の場合にまだ色々な問題がある。輸入では書類審査は厳格にやってい
る。ただ、従来はコンテナ全体が偽物というのもあったが、最近は宅急便など小口になっ
ている。また個人使用の場合は偽物でも税関で止められない。現在個人使用でも駄目なよ
うに法律を変えようとしている。